

# 教育・学修支援専門職の養成を

## 千葉大学のSDプログラム 学生をどう支援するか

多様化・高度化する社会において、学生をどのように支援するかは大学の重要なテーマである。一方、海外留学・キャリア形成・障害学生・アカデミックアドバイザーなどの各支援活動においては、体系的な知識や技術を獲得するプログラムはなかったと言える。そこで千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、文部科学大臣による教育関係共同利用拠点の指定を受け、「教育・学修支援専門職」を養成する実践的SDプログラムを履修証明プログラムとして開発・運営を行うこととした。同プログラムの背景や狙い、内容について竹内比呂也副学長・附属図書館長・アカデミック・リンク・センター長に聞いた。

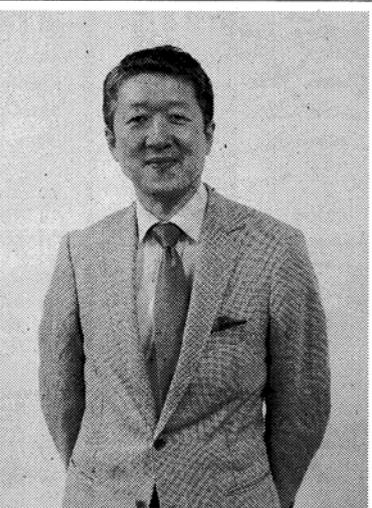
### 竹内比呂也 アカデミック・リンク・センター長に聞く

教育・学修支援に特化した専門職の養成は、全国の大学で待望されている。現在の大学教育の状況を確認すると、正課教育においては、三つのポイントを押さえたカリキュラムの構築、シラバスやカリキュラムマップ作成、授業内容や方法などでの教員支援、最近では、教材の利用について著作権にも精通しなければならぬ。学生には履修科目の選択のアドバイスを行い、就職・進路支援が必要である。国立大学では、障害者差別解消法の施行により障害を持

た教員削減により教員の

つ学生への支援も義務化され、また、グローバル化の中では留学生支援や学生の留学先での支援も必要である。さらに、職員が図書館の利用法やキャリア教育の授業を受け持つ。

一方、留学生支援や図書館利用支援の現場等では専門業者に業務委託するケースも少なくなく、大学内にノウハウが溜まらぬ、他部局との連携が難しいといった課題もある。国立大学では、過去には、若手教員が研究室などで受け持っていた学生の育成について、政府予算削減を起因とした教員削減により教員の



を背景にして、中央教育審議会大学教育部会でも「職員の専門化」は議論されていたが、各大学で事情が異なるといった理由で制度化は見送られた経緯がある。

また、大学職員の慣習として、二、三年で異動を繰り返して、シエネフリストとしてのキャリアを歩むため、学生に関する多様な問題を解決して専門的に支援することが難しいという指摘もある。

アカデミック・リンクとは

このSDプログラムに至る前に、「アカデミック・リンク」という同大独自の概念、取組を説明しなければならぬ。パンフレットによると、アカデミック・リンクと

教育関係共同利用拠点 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
「アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成プログラム」  
(Academic Link Professional Staff Development for Educational and Learning Support: ALPSプログラム)  
履修証明プログラム カリキュラムマップ(案)

各コースが、能力ルーブリックの各領域のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したのも	履修証明プログラム 15テーマ														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
①学生・学修・教育支援の内容 教育内容の把握 学生・学修・教育支援の内容の設計と実施 学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 学生・学修支援の連携	C	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B	C	B	A	A
②担当業務の内容 業務の特定と問題解決 情報収集・整理・分析・発信 業務に関する知識 様々な状況との活用	-	-	C	-	-	B	C	-	-	C	-	C	B	A	A
③大学に関する知識 高等教育・社会・教育に関する知識 所長大学に関する知識	C	B	-	-	C	C	B	C	B	C	B	C	B	A	A
④学生への対応 学生対応への基本的姿勢・態度 学生への対応 問題を抱えた学生への対応	-	C	B	B	B	-	-	B	-	B	B	C	B	A	A
⑤担当業務への取り組み方 チームワーク 人関係の構築 人間的関係の構築 教員との連携・協働	-	-	C	B	-	-	-	C	-	C	C	C	B	C	A

人材育成ができれば、日本の大学教育全体に貢献できるのではないかと考えたのです。

こうして、「アカデミック・リンク」教育・学修支援専門職養成プログラム(ALPS)「構想がスタートした。

能力ルーブリックとカリキュラム

同センターでは、従来は、現場の職員が経験的に得てきた知

この領域のうち、社会人としての共通に求められる基礎的スキルを除いた六つの能力項目について、S：知識やスキルを発展させ、指導することができ、A：知識やスキルを実践場の問題解決に活用できる、B：身に付けた知識を説明でき、C：知識として身に付けている、の四つの段階で記述したところにある(なお、この能力ルーブリックは同センターのウェブサイトに掲載されている)。

このルーブリックを学修目標に、①学生の抱える困難の理解と支援、②学生・学修に対する理解、③ラーニングコミュニティの運営、④プロジェクト実習など二五テーマの科目から構成される実践的SDプログラムを履修証明プログラムとして、カリキュラムを作成した(表を参照)。この履修証明プログラムでは、eラーニングと対面授業で一科目八時間、合計で二〇時間以上を学修することで、履修証明書が与えられる。

「正式に履修証明プログラムとしてスタートするのは二〇一七年度からで、現時点では個々のテーマの具体的な内容はまだ固まっています。この夏から「教育のICT化と教材開発支援」という科目を試験的に開講する予定です。「SD」「職員」を打ち出していますが、教員ももちろん歓迎です」と話す。

ゆるやかな専門性 この履修証明プログラムは、専任教員になる前の若手教員や、主に教育に力を入れる大学の教員等が学修支援の方法を体系的に学ぶのに最適だとも言える。このプログラムはまさに実践者のためのものだが、同大学では学術的に学びたい人のために大学院コースの創設も準備しているという。

こうして生まれた附属図書館/アカデミック・リンク・センターは、四つの建物から構成され、それぞれ異なるテーマを持つ。学生に学びの場を提供している。

「全国に先駆けて新しいコンセプトの施設を作ることのできたきっかけの一つが、二〇〇八年の「学士課程」答申でした。この答申を受け、本大学は「アカデミック・リンク」というコンセプトで学生の学修支援を行うと明確に打ち出しました。また、ICTを活用した新しい教材作成の支援など教育支援にも取り

組みました。これが学内外に高い関心とともに受け入れられました。センター開始から四年が経過し、運営のノウハウも蓄積され、重要なのは「人材」だと痛感しました。施設だけ作っていても、それを運営する人材がいなければ利用されることはありません。

そこで今度は学生の学修を支援する人材の養成が必要だと考えました。幅広い学修支援が日本の大学教育に求められているなかで、これまでの本センターの取組みをもとに、教育支援や学修支援の専門性を高めるための

この能力ルーブリックの特徴は、能力項目の七

この能力ルーブリックの特徴は、能力項目の七

この能力ルーブリックの特徴は、能力項目の七

この能力ルーブリックの特徴は、能力項目の七

この能力ルーブリックの特徴は、能力項目の七